



スカイプで繋いだ画面に映るフィリピンの子どもと交流

スカイプを通じて路上の子どもの笑顔に出会う

<国際理解教育事業：担当スタッフからのレポート>

昨年9月から今年1月にかけて、日本の若者とフィリピンの路上子どもたちとのスカイプ交流を計10回行いました。交流の目的は、路上子どもたちにとっては、路上での生活の様子や辛い経験を話すことで、自らが抱える他者への不信任やトラウマを取り除くこと、そして日本の子ども・若者たちにとっては、路上子どもへの理解を促進し、自分に「できること」を考え、一歩踏み出してもらうことです。

1月23日に実施した愛知県立刈谷北高等学校では、国際理解コースの生徒24名が参加しました。最初に職員から、路上子どもについての説明を行うと、「苦しい生活をしている子どもたちにどう接していいかわからない」という声が聞かれました。路上子どもへの質問を考える際も、「何を聞いていいのか…」と躊躇してしまう生徒もいたため、こちらから「友達と話すように、何でも聞いて大丈夫」と伝えました。すると、生徒たちから様々な質問が候補として挙がったので、普段友達と話すような質問でまず仲良くなり、その後路上での生活に関する質問をして、路上子どもの状況への理解を深めるように構成を考えました。

実際にスカイプを繋ぐと、路上子どもたちの明るい笑顔が映り、すぐに日本の生徒たちも「わー！」と盛り上がり笑顔になりました。「幸せな時間はどのような時？」という日本からの質問には、「家族で過ごしている時」「ご飯を食べる時」「家族でお出かけができる時」などと路上子どもたちが答えました。また、「将来の夢は？」という質問に対し「私は困っている人を助けるためにお医者さんになりたい」など、夢を叶えることで、困っている人を助きたい、家族を楽にさせてあげたいという回答が目立ちました。

路上子どもと聞いて、暗いイメージを持っていたり、「毎日何を考えて暮らしているのか想像できない」と言っていた生徒たちも、交流後には、「明るい笑顔が印象的だった」、「今あるものに日々感謝をしているところを見習いたい」、「他人を思いやる優しさに感動した」などの感想を述べていました。今年度、このスカイプ交流に参加した202名の日本の若者が、「路上子どもたち=かわいそう」で終わるのではなく、交流を機に理解を深め、どこか遠い国で起こっている問題としてではなく「自分事」として、子どもたちの状況が良くなるために何ができるかを考え、実践してくれることを願っています。



ICAN 日本事務局
久野美奈子 (くのみなこ)
～プロフィール～
南山大学卒業後、民間企業での営業職等を経て、2015年12月にアイキャンに入職。

Project Site



●はアイキャン事業地
番号は裏面に対応

認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち

1月28日/リザール州サンマテオ市

コンポスト作りで食と環境について学ぶ



児童養護施設「子どもの家」で暮らす6名が、中部電力株式会社有志が作成した紙芝居でコンポストについて学びました。その後、土や落ち葉、台所から出た野菜くずやバナナの皮、ミミズなどを使って、実際にコンポストを作成しました。ジョマール君(15歳)は、「生ゴミがリサイクル出来る事がわかってワクワクした。これからコンポストを大切に活用していきたい。」と話しました。

②先住民の子どもたち

1月19日/ブキドン州マライパライ

2017年の学校運営計画が完成



校長先生を対象に行った研修に31名が参加し、先住民の学校の2017年運営計画が遂に完成しました。教師のイストーキーさん(24歳)は、「先住民の学校に合った運営計画作成は、思った以上に困難で頭を抱えるものでしたが、できあがった計画に、とても満足しています。子どもたちのより良い教育のために、この計画を責任をもって校長先生と一緒に実行していきたいです。」と語りました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

MY アイキャン事業

1月24日/愛知

全国から届いた書き損じハガキ

この日、長机2脚に収まりきれないほどの書き損じハガキのご寄付が届きました。以前から応援してくださっている方々に加え、新聞やFacebookをご覧になって今回初めて送ってくださった方も沢山いました。ありがとうございます！引き続き、未使用の官製ハガキや未使用切手、商品券のご寄付をお待ちしております。(ご郵送先: 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 アイキャン宛)



国際理解教育/MY アイキャン事業

1月28日/愛知

中学生10名がハガキカウント作業

名古屋女子大学中学校の生徒10名が、日本事務局にご寄付として届いている書き損じハガキや未使用切手を数えるボランティアを行いました。作業前に路上の子どもたちの現状や活動について学び、「このハガキ1枚で二人の子がご飯を食べられるんだ」と言いながら、数える枚数の価値を考えながら作業してくれました。終了後、「学校でハガキを集めて持ってきます」との声も聞かれました。



今月のMedia

- 1月12日 UNHCR Djibouti Inter-Agency update on the Yemen situation #50 ジブチの難民キャンプでの活動
- 1月18日 電気新聞 中部電力社員有志と路上の子どもとのスカイプ交流
- 1月19日 中日新聞 書き損じハガキ収集活動
- 1月19日 Global News Asia 書き損じハガキ収集活動
- 1月24日 キャッチネクスト KATCH TIME 30 刈谷北高校での路上の子どもとのスカイプ交流
- 1月25日 中日新聞 刈谷北高校での路上の子どもとのスカイプ交流

今月のICAN なる

◎池田さん、スマイルチケットのご受講も、いつもありがとうございます！

マンスリーパートナー 池田あゆみさん

「英語の勉強と毎月の寄付で、少しでも役に立てたら」

インタビュー:2月9日

私は、大学の先輩がフェイスブックでスマイルチケット(チャリティ語学教室)を紹介していたのを見て、アイキャンを知りました。海外旅行が好きで、現地の人と英語で話せるよう勉強したいと思っていたので、職場の同僚と一緒に入会しました。通い始めて半年経ちますが、学校では習わなかったような実用的な英語や、知らなかったことを沢山勉強できるので楽しいです。9月に旅行したセブ島では、授業で習った英語を早速使うことができました。

マンスリーパートナーになった理由は、スマイルチケットの友達割引制度で、月謝が1000円引きになっているからです。授業でアイキャンの活動について知ったり、授業後に提出するチケットで、その日のレッスン代で何が出来るかを読んだりしているの、割引してもらっている分を活動に使ってもらえたらと思いました。ボランティアをしたことがなく、NGOの活動を初めて知りましたが、毎月の活動の写真をみると、役に立っていると感ずることが出来ます。月1000円から始められるというのはやりやすいですし、ほんの少しですが役に立ったら嬉しいです。

スマイルチケットに通うことで、他にもいろんな協力の仕方があると知りました。アイキャンには、自分の時間を使ってサポートしているボランティアの人も沢山いて、皆が思いを持ってやっているのがいいなと思います。たった1,000円でパートナーになれる、書き損じハガキで役に立てる等、'ICAN'をする方法が沢山あることを、もっと多くの人に知ってもらいたいです。



【編集者から一言】日本事務局(名古屋)で行っているチャリティ語学教室「スマイルチケット」では、英語またはタガログ語の受講生を常時募集しています。詳細はHPをご覧ください。お問い合わせください。メール: smile_ticket@ican.or.jp